

章	第4章 安全で、ひとと地球にやさしいまちづくり（安全・環境）
節	第4節 廃棄物処理
施策	安全で適切な廃棄物処理の推進
質 問 内 容	
I 成果指標の進捗状況	①多くの自治体で、ごみの有料化（ごみ袋の有償化）が一時的に排出量の低下を招くけれど、リバウンドを想定しなければならない。また、景気の動向と排出量の変化には強い関連性がある。 この間の減量化と目標値の達成状況を市民意識の向上に求めているけれども、上記の要因を勘案して目標値と実績値の経緯を評価分析する方策の検討を求めたい。 ②市民の協力、民営化促進等により、本来、より以上のコストダウンを図っていくべきであると考えるが、数値目標としての成果指標は安定的であるといえる。
II 成果指標の妥当性、目標値の設定	①廃棄物処理の成果目標としては、市民の協力を得て、ゴミの総排出量を減らすことが第一であり、その基礎として市民一人当たりのゴミ排出量を減らすことが重要となるので、2つの指標は妥当であるといえる。 めざそう値に対して達成値が100%越えを2年度続いていることから、あと1年度の達成値を検証した結果、同様であれば、めざそう値の再設定が必要ではないかと考えますがいかがでしょうか？ ②数量目標だけでなく、経済性を反映する指標があってもよいのではないかな。 ③また、市民ニーズについて重要度は高いのに満足度は低いことについて、現状のままではよいとは思いませんが、それについて何か方策などはあるのでしょうか？ ④市民と事業者の排出量を区分しての指標は、不必要ですか。 ⑤成果指標として、容器包装プラスチック類のリサイクル達成度的な指標は考えられないのか。

Ⅲ 内容 その他	①H18年に始まったゴミ袋の有償化の実態分析とその効果測定を明らかにしていただきたい。 ②減量化が進んでいるにもかかわらず、収集事業のトータルコストが漸増している理由は？ ③生ごみ処理機購入助成金が H20 から H21 と急減している理由は？ ④佐野台浄化槽管理事業は、2 次評価に置いて「段階的に廃止」とされているが、今後の下水道計画に合わせた工程表を提示されたい。 ⑤浄化槽管理事業は、各施設管理事業に統合可能とされているが、佐野台浄化槽管理事業は統合不可能としている理由は？ ⑥ごみ収集事業（クリーンセンター）、佐野台浄化槽管理事業、浄化槽管理事業、施設管理事業（クリーンセンター）は、一部もしくは全部委託可能としているが、それぞれの検討プロセスを開示されたい。 ⑦同じくごみ収集事業の担当課は事業の方向性を A 拡大とし、2 次評価者は B 現状維持としているそれぞれの思いの違いを、お聞きしたいと考えます。 ⑧環境浄化に伴い廃棄物処理の重要度は、大なるものがあり、市民の啓発方策は。 ⑨ごみの有料化に伴って、どのような効果が達成できたのか。市民の理解を得るための情報公開や広報活動が具体的にどのようになされてきたのか。
----------------	--